

4月17日に3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について結果がまとまりました。今年度の調査は、国語と数学、理科（CBT：コンピュータを使用したオンラインの調査）の3教科のテスト、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査を実施しております。調査結果を踏まえ、生活習慣や学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学・理科）

各教科の平均正答率は、国語は全国平均より上回っているが、数学や理科に関しては全国平均並みという結果である。領域別や観点別、解答の形式別にみると、国語は唯一短答式が下回り、数学では数と式に課題が残る結果となった。理科に関しては、分野によって正答率の差があるが、無解答率は全国と比べても少ない傾向である。本校では昨年度から、主体的・対話的で深い学びの実践研究事業を受け、各教科において授業改善を行っている。これらの結果を分析し、弱点となる領域や観点、問題形式に関してさらなる改善を図るため、授業改善に引き続き努めていきたい。

国語科より

全国平均と比較して多くは差異が無いものの、「聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する」という問いでは、全国平均77.9%に対し76.7%の正答率であった。さらに別の問題では「手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する」という問題で全国平均57.3%に対し45.2%とかなり低い正答率のものがあった。以上の結果より思考・判断・表現にあたる、相手の反応や読み手の立場になって自分の考えを分かりやすく伝える工夫や表記を確かめるような力が定着していないと思われる。また、誤って書かれている漢字を指摘するという出題形式に対応しきれなかった部分もあると考えられる。

数学科より

「図形」区分の正答率は、全国平均に比べ3.2ポイント上回り、特に平行四辺形に関わる証明の問いについてはすべての問いで全国平均を上回る結果となった。証明の問いは、授業の中でロイロノートを用いて証明の流れを考える取り組みの成果といえる。一方で「数と式」区分は、全国平均に比べ3.5ポイント下回り、計算力が十分に身につけていない。具体的には、「素数」を正しく理解できていないことや、数量を文字を用いた式で正しく表すことができていないことがわかった。式の展開・因数分解、平方根や二次方程式の分野では、これまで以上に計算力が問われるため、小テストを各単元で5回程度行い実施し、計算力向上を図る。また、「数量を文字を用いた式で正しく表す」等の1,2年の復習内容については、課題を出して家庭学習で定着を図り、復習テストを実施する。数学の内容がよくわかる、数学が楽しいと感じている生徒の割合は、全国平均を大きく上回った。一方で、解答時間は十分であったかの質問については、「やや足りなかった」と「全く足りなかった」生徒の割合が、いずれも全国を下回る結果となった。決められた時間の中で考え、問題を解決することに課題がある。

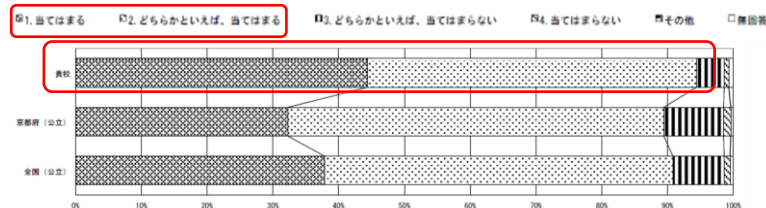
理科より

全国の正答率に対して、5%以上下回った問題としては、化学の分野の2問だった。全国の正答率に対して、5%以上上回った問題は、生物と化学分野でそれぞれ1問ずつあった。特に生物の分野の問題では、全国の正答率より10%近く上回った問題があった。示された資料を自分で解釈して考察することがよくできていた。一方で、疑問を解決するために新たな課題を立てることに課題が見られた。今後は「疑問を解決するために新たな課題立てる」力をつけるために、授業ごとにポートフォリオで新たな疑問を考えてもらう。また、単元や章の終わりの時間を使い、自分の持っている疑問を解決するために、どんな学習や実験などが必要になるかを考えて、ポートフォリオのまとめとして記述する時間をつくっていく。

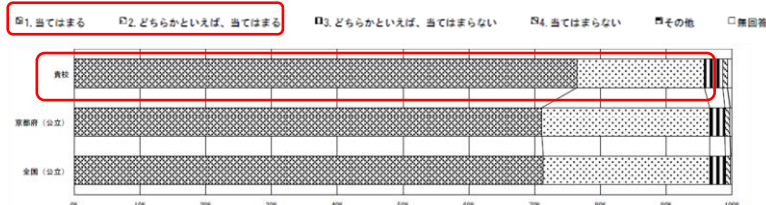
生徒質問紙調査から見える成果

※棒グラフは、上から「本校」「京都府（公立）」「全国（公立）」

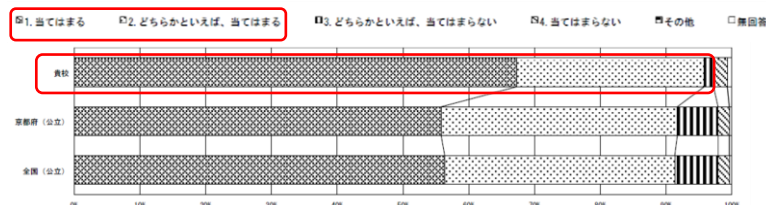
① <人が困っているときは、進んで助けていますか>



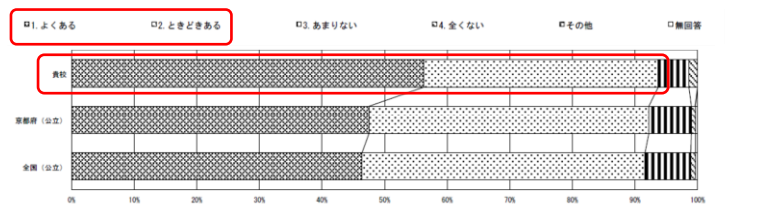
② 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



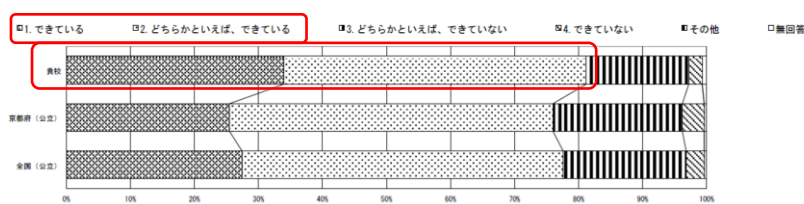
③ <友達関係に満足していますか>



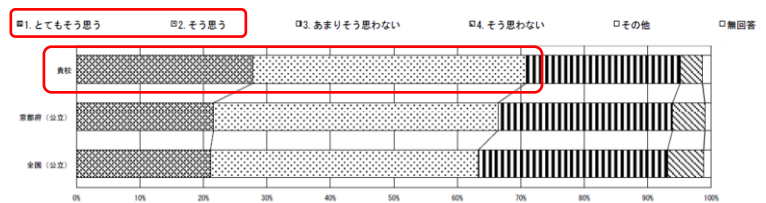
④ <普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか>



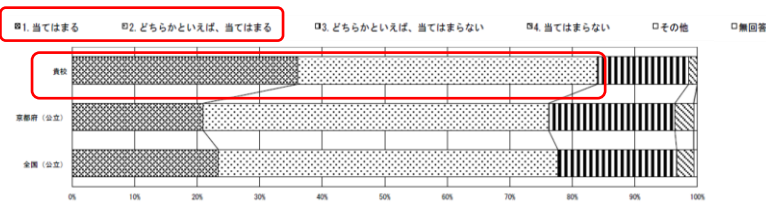
⑤ <分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか>



⑥ <あなたは自分がICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができる>



⑦ <1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか>



① 全国や京都府平均と比較しても、本校生徒の割合は多い。校内だけではなく、普段の生活においてもこのような心掛けは大変うれしいものです。生徒たち一人一人がお互いを思いやりながら、共に過ごしている証と読み取ります。

② ①と同様。将来、どのような職業を選択していくのか、利益だけを求めるのではなく、人が喜び幸せにできるような道を選んで欲しいと思います。

③ 友人間での大きなトラブルも少なく、楽しい学校生活を送れているようです。

④ 全国とも比較して、幸福度が高いようです。ご家庭での過ごし方も大きく影響しているのではないのでしょうか。

⑤ 本校では、探究心の向上も一つの課題であるが、それらを意識した授業展開により、自ら考え、追求していく力がつき始めてきたと言えるのではないのでしょうか。

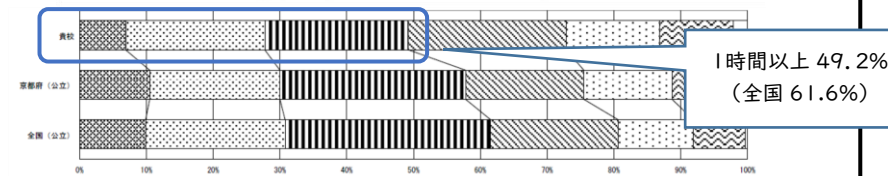
⑥ これから社会に出ていく生徒たちにとっては、ICT機器を使いこなせることは必須条件です。既にそのスキルを持っている生徒が多いことは普段から授業で使い慣れているからでもあります。

⑦ ⑤⑥も含め、主体的で深い学び、探究心を育む授業を今後も続けていきます。次世代の社会を創っていく生徒にとっては、答えの無い問いに立ち向かう力がこれから必要です。

生徒質問紙調査から見える課題

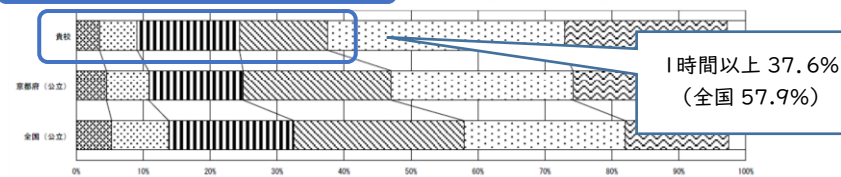
① <学校以外に、普段（月～金）1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾家庭教師なども含む）>

□1. 3時間以上 □2. 2時間以上、3時間より少ない □3. 1時間以上、2時間より少ない
□4. 30分以上、1時間より少ない □5. 30分より少ない □6. 全くしない



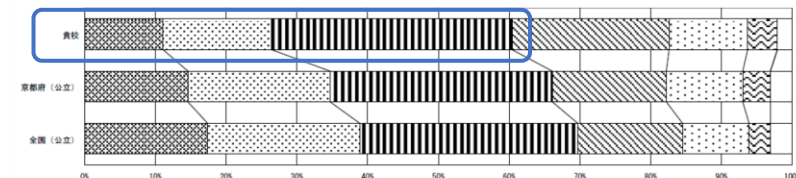
② <土日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（塾やネット活用も含む）>

□1. 4時間以上 □2. 3時間以上、4時間より少ない □3. 2時間以上、3時間より少ない
□4. 1時間以上、2時間より少ない □5. 1時間より少ない □6. 全くしない



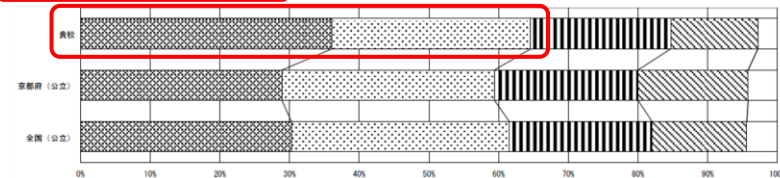
③ <あなたの家にはおよそどれくらいの本がありますか>

□1. 0～10冊 □2. 11～25冊 □3. 26～100冊 □4. 101～200冊 □5. 201～500冊 □6. 501冊以上



④ <読書は好きですか>

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □5. その他 □無回答



① 下校後の学習時間については、以前から少ない傾向にあります。多いことが良いとは限りませんが、今後ともご家庭での様子を見ていただければと思います。本校では、家庭学習課題も各教科でバランスを見ながら与えていますが、生徒によっては少なく感じたり多く感じることもあるかもしれません。学習塾等もあり、計画性をもってこれからも課題に取り組んで欲しいものです。

② ①と同様に土日での学習時間も少なく、平日からさらに減少しています。学校だけの学習で事が足りているのなら安心ではありますが、そうとも言い切れないと思います。家庭学習習慣をつける必要があります。

③ ④に関しては、全国や京都府と比較しても本の所有数は低いものの、読書好きは全国や京都府を上回る結果。昼の図書館開館や朝読書の定着が影響していると考えられる。また、最近の若者には電子書籍に対する抵抗も小さいため、そのような要因も考えられるのかもしれません。

全体を通した本校の課題

今年の結果は、教科によってばらつきはあるものの、全国平均並みとなった。昨年度から取り組んでいる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、日々の授業改善を全教科で行ってきました。自ら発言する機会やグループで話し合う場面が多く見られ、その効果については、今回の生徒質問紙からも読み取ることが出ています。ICT機器の活用など、生徒も教員も日々研究や試行錯誤を繰り返しながらも、学習面に良い影響が出てきているようにも思います。しかし、学校にタブレットが配備されて5年程、今後はこの5年間を検証しながら、よりベストな学習環境や授業を考えていく必要があります。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、今の子どもたち（現小6、中3）の学習状況や実態を知り、課題解決を探りながら、未来を創る子どもたちの可能性を広げることです。この調査によって、今の中学生の課題を見つけ、これからの子どもたちをどのように教育していくかを考えるきっかけともなります。ICT機器の導入やAIの発展により教育業界も、未来を生きる生徒の育成に過去の遺産だけで対応することはほぼ不可能となってきました。そのような未来を生き抜くためにも、ICTやAIを使いこなせる力も必要になります。各教科の授業を通じて、これらの力を育む教育を今後も続けていかなければなりません。